



### キリスト教に立脚した

## 広島女学院への期待

院長・学長 湊 晶子

2014年に81歳を過ぎて広島女学院に伺って以来、早7年が経ち学院報の巻頭言を書かせていただくのもこの号で最後となりました。就任以来私が学内の教育改革以外に最も力を入れて来たことは、第一に東京女子大学学長8年の経験を生かして全国の女子教育機関との連携を強化すること、第二に現代を生かす広島女学院の教育理念を教育界は勿論のこと、経済界に於いても認知していただくことでした。

第一の女子教育機関との連携強化の必要性については、私自身が地方の大学に身を置いて初めて強く感じたことです。全国的な女子大学連盟の存在意義を実感し、2019年度と2020年度幹事校をお引き受けし、準備を整え全国から加盟女子大学の学長をはじめ管理職にある方々をお招きできることを楽しみにし、最善の準備をしていました。しかし、台風接近とコロナ禍のために私の任期中に全国から皆様をお迎え出来なくなり大変残念に思っています。

第二に長年に築かれた教育界、経済界とのネットワークを駆使して、広島女学院の認知度を高めるために、就任以来毎年プロジェクトを企画致しました。超多忙の中駆けつけて出演してくださいました方々、女学院の諸事情を知って奉仕で出演してくださいました方々、裏方で協力してくださいました同窓会、教職員の皆様から感謝いたします。7年間の総決算として感謝をもって主な行事をまとめさせていただきます。

- ・2014年9月23日 新渡戸稲造・南原繁シンポジウム「新渡戸稲造と砂本貞吉」日本キリスト教女子教育を支えた男たち」湊 晶子 東京学士会館（出席者300名）
- ・2015年5月30日 広島女学院大学公開講演会「女子教育のこれからと平和」津田塾大学 國枝マリ学長、東京女子大学 小野 祥子学長、広島女学院大学 湊 晶子 ホテルグランヴィア広島（出席者/500名）
- ・2016年9月24日 創立130年記念講演とオルガン演奏 講演「女子教育が世界を変える」湊 晶子、演奏オルガンスト 湊 恵子、湊 彩花 広島女学院ゲインズホール（出席者/540名）
- ・2017年〜2018年（全5回）大学・同窓会主催「学長聖書研究会」広島女学院大学人文館303教室（延べ出席者/900名）
- ・2018年11月23日 広島女学院大学主催サロー節子氏特別講演会「キリスト教主義女子教育と平和」砂本記念講堂（出席者/1100名）
- ・2019年11月4日 広島女学院大学開学70周年・学院創立133周年記念講演とシンポジウム「真の国際人とは〜グローバル化を支える教養〜」広島大学 越智 光夫学長、紀伊國屋書店 高井 昌史会長兼社長、広島女学院 湊 晶子 ホテルグランヴィア広島（出席者/530名）

ここ数年でいくつもの女子大学がクローズしていく中で、広島女学院がこうして神様の御手のうちに守られて新年を迎え、来る4月には新学長と共に新しい出発が出来ますことを心から感謝しつつ新年のご挨拶とさせていただきます。



2019年11月4日 創立記念講演とシンポジウム



2015年5月30日 三女子大公開講演会

## 大学

University

## 希望のキャリアに向かって

## —CSPインターンシップを実施—

キャリア・スタディ・プログラム(CSP)では、1年次後期から2年次末まで、7つの業界(航空・ホテル・観光・ジャーナリズム・IT・貿易)ごとに業界に関する知識と英語力を高める実践的な学修を行います。さらに3年次には、本学科が独自に提携を結んだ各業界の企業や団体などのインターンシップを実施します。

本年度、国際英語学科1期生がインターンシップに派遣されました。新型コロナウイルス感染症の流行により一時は研修の実施が危ぶまれましたが、受け入れ先企業の皆様のご協力により、感染防止に配慮した形で、9名の学生が市内のホテルや旅行代理店、広島空港などで研修を行うことができました。学生たちは社員の方々から指導を受け、社会人の先輩としての話を聞くなどしました。時にはうまくいかないこともあったようですが、短期間で様々なことを吸収し、各自の強みや改善点に気づき、キャリアについて考えを深めるなど、実りある研修になったようです。

コロナウイルス感染症の流行による難しい状況で学生を受け入れて下さった企業の皆様、

また本学の各所の教職員の皆様に改めてお礼申し上げます。

学生たちには、人との関わりを持つ機会、様々な活動が制限される中で得たこの経験を活かし、さらに飛躍していつてほしいと期待しています。

(国際英語学科長

磯部祐実子)



旅行代理店での研修の様子(旅行企画の発表)

## 日本文化学科における

## 国語科教員養成の取り組み

## —コロナ禍にも対応できる教員を目指して—



教員志望の学生によるグループワークの様子

今夏においては、実にうれしいことに多くの学生が国語科教員への夢をかなえることができました。広島県立高校へ1名、広島市立中学校へ1名の学生が教員採用試験に合格し、私立高校へは3名の学生が就職内定をいただきました(国際教養学科国語系メジャー実績)。

そのような4年生の頑張りを間近で見たことも影響しており、日本文化学科では3年生の国語科教員志望者が集まり、自主的な月例研究会を実施しています。10月と11月は対面で、12月はオンラインで行いました。現在は、教員採用試験の過去問に取り組み、輪番制で学生自身が解答の解説を行なっています。新型コロナウイルスの影響で多くの課外活動が自粛傾向にある中、このような取り組みは、学習内容自体は勿論ですが、アフターコロナの時代においても、臨機応変に対応できる力を身につけてくれることと期待しています。

なお、日本文化学科では、「国語科教育法Ⅳ」でのデジタル教科書を使った授業や、課外活動として、ESDティーチャーズプログラム、SDGsオンライン研修への参加なども積極的に行っています。希望者には「古典文法講座」「古文解釈講座」「漢文対策講座」を本学科教員が正規の授業とは別に提供していますので、苦手分野がある学生もその講座を通して力をつけてくれるようです。

コロナ禍においても前向きな姿勢をみせてくれる学生の皆さんに私たち教員も励まされる思いです。今後どのような状況になってもしっかりと着実に日々の学業やその他の活動に取り組んでくれるよう願っています。

(日本文化学科長 足立直子)

## 「まちの」コミュニティハウス

## プロジェクト」第2期始動

「まちのコミュニティハウスプロジェクト」は、トータテ都市開発(広島市)、建築設計事務所ブルースタジオ(東京都)とともに「事業者と住人をはじめとした地域社会の当事者が一体となって愛着と誇りある未来のまちづくりを目指す」ため、新しいまちづくりのあり方を検討する産学連携プロジェクトです。2018年度後期に、生活デザイン・建築学科の学生たちが牛田早稲田3丁目の国家公務員宿舍跡地に建つ、地域住民のための「まちのコミュニティハウス」の設計に取り組み、関係者による審査を経て最優秀賞作品「長屋台」が実際に建設されることになりました。2019年度は案が採用された学生3名が関係者と打合せを重ね、そしてついに2020年9月16日に地鎮祭を迎えることができました。

現在、このプロジェクトは生活デザイン学科に引き継がれています。2020年11月、12月には学科1、4年生60名が建設現場を見学しました。また、3年生15名がコミュニティハウスの活用方法の提案に取り組みんでいます。コミュニティハウスは今年度末に完成予定です。完成後は地域の皆さん、トータテ都市開発、広島女学院大学の三者でコミュニティハウスの具体的な使い方を検討していく予定です。

(生活デザイン学科長 小林文香)



最優秀賞作品「長屋台」



上棟時の見学風景

郷土料理コンテストで『郷土愛賞』を受賞！  
うま味調味料を活用した  
減塩「もぶりご飯」を考案

第5回うま味調味料活用郷土料理コンテスト2020が開催され、管理栄養学科2年の藤有里さん、福永有紗さん、羽倉由美さんの3名がチーム「アスコルビン酸」として参加し、広島県の郷土料理である「もぶりご飯」をうま味調味料の活用により減塩でおいしい料理にアレンジし、見事『郷土愛賞』を受賞しました。参加のきっかけは、授業で日本人の食塩摂取量が多いと学んだこと。コンテストを通して多くの人に減塩の大切さを理解してもらおうことや郷土料理の伝承にも健康に配慮した工夫が必要であると感じたからだそうです。また、近年の孤食問題にも触れ、共食の楽しさを伝えられる料理を受け継いでいきたいという思いから、広島県の「もぶりご飯」に着目。伝統レシピで使われる醤油や塩の量をただ減らすのではなく、本来のおいしさを維持できるように、調味料の配合を何度も検討し、約50%の減塩に成功しました。寿司酢の代わりに広島特産のレモン果汁を使用した点もおいしさのポイント。やわらかな酸味とさわやかなレモンの風味を楽しめる「もぶりご飯」が完成しました。

コロナ禍にあってもオンラインなどを使って仲間と意見を出し合い、試行錯誤しながら取り組んだ成果は、受賞以上の価値があるのではないのでしょうか。

(管理栄養学科長 市川知美)



減塩「もぶりご飯」

2020年度

小学校教員採用試験合格率100%  
—「小学校教育実践研究会」の実績—

児童教育学科への学科改組のため、今年度で最後となる幼児教育心理学科の「小学校教育実践研究会」メンバー（11期生）8名が、広島県・市の小学校教員採用試験に全員合格しました。合格率100%。研究会発足以来、これまで、109名の正規小学校教員が誕生しました。元小学校校長の曾川昇造先生（本学元特任教授・非常勤講師）をはじめ、小学校や教育委員会等での現場経験が豊富な教員による複数指導の賜物でもあります。何より、学生達の主体的・協同的な学びの成果と言えます。特に今年前期は新型コロナウイルスの蔓延により大学に来て学修することが叶わない状況に陥って、学生は呻吟しました。そのような苦境の中、学生同士が連絡を取り合い、共に励まし合いながら勉学に励みました。また、学生は3年生まで、学科の教員が顧問を務めている、ボランティア活動等を行う「子どもチャレンジラボ」（学習カウンセリング研究会・牛田小学校で遊ぶ等）の11の研究会）に1年生から積極的に参加し、実践力を高めてきており、当に「たゆまぬ努力」の結実でした。学科としては、今後も学生の進路希望を叶えるため、より実践力を向上させ専門性を深められるよう、「学校インターンシップ」「学級づくりの理論と実践」等の科目を設定しています。



「小学校教育実践研究会」メンバー

(児童教育学科 教授 戸田浩暢)

2020年度秋季宗教強調週間

〜人のつくる距離と、神が満たす距離〜

今季宗教強調週間は、春季に引き続いて遠隔での配信となりました。参集して行うことができなかつたのは残念ですが、かつて本院の理事、大学協力会長をつとめてくださった立野泰博先生が、今春からふたたび日本福音ルーテル広島教会牧師として帰任なされたことを良い機会に、講師をご依頼できたことは大きな喜びでした。

10月13日（火）配信の「キリスト教の時間」では『新つながりの創造〜いまコロナ禍の中で考える〜』と題し、東日本大震災や熊本地震の悲劇をきっかけに「臨床宗教師」という宗教を超えたつながりや働きが生まれたこと、翌14日（水）配信の特別講演会では『神様の Social Distance 〜つながれない距離の中で〜』と題し、ベルリン・パレスチナ・アウシュビッツという近現代史を象徴する「壁」の話題からはじまり、先生ご自身が取り組んでおられる国際協力を通して見えてくる意識の隔たり、そして現在のコロナ禍という、つながりたいけれどつながれない「距離」の問題を考察しながら、「神は私よりも私に近いです」という、キリスト教神秘思想家マイスター・エックハルトの言葉に象徴される福音理解が語られました。

いずれの講演でも、先生ご自身の経験にたつて、私たちが現在の事態をどのように受け止めて過ごせばよいのかについて、また、今だからこそなすべきこと、なしうることに、新しい展望につながるメッセージを、情熱をこめて届けてくださいました。

「キリスト教の時間」での講演は500回以上、特別講演会は授業割愛のご協力の効果もあって1000回を超える視聴がカウントされたことは驚きです。メッセージの持つ力が社会的距離という「壁」を超えて届いたことを示す数字といえるでしょう。

講師の立野先生はじめ、ご協力くださった皆様、視聴してくださった皆様に心から感謝します。

(大学宗教委員長 澤村雅史)

### 文化祭代替発表・展示会

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、残念ながら中高文化祭は中止となりました。しかし学校としては部活動で活躍する生徒の発表の場を設定したいということで、2学期中に文化祭代替発表・展示会を開催することになりました。このご時勢ですので観覧者は本校生徒・教職員とその部員の保護者・兄弟姉妹に限り、消毒も準備し、観客席でも密を避けるように呼び掛けました。例年の文化祭のようなにぎやかさはなかったものの、例年では各自の仕事があつて他の発表を見るのができなかった生徒も今年は友達のため展示物を隅々まで見ることができて、また展示も期間が長かったため楽しめました。来年はコロナも終息し、無事例年通りの文化祭ができることを願っています。

最後に、例年は10月発行号にポスター・パンフレットの生徒作品を掲示して参加を呼び掛けていましたが、今年度はそれができなかったため、この号でポスター・パンフレットの生徒作品を紹介します。

(高校生徒会顧問  
中原克芳)



文化祭ポスター



文化祭パンフレット

### 秋の広報活動

今年度はコロナ禍のため、「私学フェスタ」や塾主催の説明会・相談会がほとんど中止になりましたが、新しい方法での広報活動にチャレンジしています。

10月3日(土)・17日(土)に、入試説明会と秋のオープンスクール(小学6年生対象)を開催しました。今年は完全予約制で参加人数を限定し、オンライン配信も合わせて行いました。入試説明会は例年2回のところを今年は3回行い、合わせて472名の参加がありました。(オンライン参加は278名)また、オープンスクールには194名の小学生に参加してもらいました。(オンライン参加は109名)オープンスクールでは、部活紹介動画を見てもらったり、教員による入試対策授業を行いました。EIPを受講している中高生が司会や会場設営・案内などを行い、参加者から大変高い評価をいただきました。

また、「On1教育セミナー」と称し、Zoomを利用したオンライン相談会を、10・11月に3回実施しました。

(広報部長 瀨岡由希子)



秋の広報活動

### マンドリン部40年連続出場賞受賞

全日本高等学校ギター・マンドリン音楽振興会が全国高等学校ギター・マンドリンコンクールを開催して今年で50年を迎えます。そのうち、本校のマンドリン部は過去40年間、連続して全国大会に出場を続けており、この度その栄誉を称えて「40年連続出場賞」が贈られました。

高校マンドリンクラブは、一説には1959年に結成されていたようですが、元顧問・現コーチの松重正清先生赴任の翌年1980年に中学校マンドリンクラブが設立され、翌81年には中高一体となって活動を始めました。1981年に記念すべき第1回定期演奏会を開催、今日の活動に続いています。

全国高等学校ギター・マンドリンコンクールでは、出場3年目から昨年度まで優秀賞を連続受賞、さらに特に印象深い演奏をした団体に与えられる特別賞(文部科学大臣賞、全国知事会賞、朝日新聞社賞)のうち文部科学大臣賞12回、全国知事会賞6回、朝日新聞社賞10回を受賞、そのほか吹田市長賞3回、大阪市長賞12回、国際賞(ドイツ、スペイン、イタリア)の各大使からそれぞれ1校表彰)のうちドイツ大使賞、スペイン大使賞各1回、イタリア大使賞3回を受賞しています。そのうえ何よりも、

長年にわたり地域のマンドリン音楽の振興、向上に大きな成果をあげ、全国大会でも多くの聴衆を魅了する優れた演奏をし、ギター・マンドリン音楽振興会にも多くの貢献をした学校に与えられるという栄えある鈴木剛記念フェスティバル大賞(20回大会から新設)も受賞、すべての賞を受賞するという栄誉を得、大活躍を続けています。

松重先生の指導のもと、今日まで積み上げられた歴代の部員のたゆまぬ練習と、顧問の先生方の支えがあつてこそのことです。おめでとうございました。

(マンドリン部顧問  
森永裕子)



# バーチャル修学旅行で学ぼう

## 広島・長崎・沖縄

10月24日(土)、テレビ朝日主催のオンライン番組「バーチャル修学旅行で歴史を学ぼう 広島・長崎・沖縄」に高校2年生5名が Zoom で参加しました。この番組は、コロナ禍で修学旅行が延期・中止となった全国の高校生たちがオンラインで平和・戦争について学ぶために企画されました。講師として、本校卒業生で長年核廃絶のための運動をされノーベル平和賞受賞式でスピーチされたサロー節子さんや、タレントのりゆうちえるさんが参加されました。番組中、本校生徒がサローさんに直接質問する機会を与えていただきました。また、女学院生の平和学習の取り組みを褒めていただき、生徒たちはとても喜んでいました。

放送後の現在も、他県の高校生たちと各県・各校の平和教育の現状や平和への考え方について Zoom を使って意見交換する勉強会を自主的に行っています。

(広報部長 濱岡 由希子)

# キリスト教強調週間(11月16~21日)



主題 「神様リフレミング♪新生活様式をみ言葉で生きる」  
 主題聖句 「心を新たに  
 して自分を変えていた  
 だく」(ローマの信徒  
 への手紙12章2節)、  
 講師に立野泰博先生  
 (日本福音ルーテル広  
 島教会牧師)をお迎え  
 しました。

講演では、フィリピンのゴミ山での出会いや被災地支援、また先生ご自身が死を前にし



強調週間学年別活動(施設へのマスク作り)



幼稚園に送る動画作成

コロナ禍の下、例年より時間を短縮し、ホールでの講演も2学年ずつ、学年別活動における体験学習も一部縮小せざるを得ませんでした。今だからこそ受け取りたいメッセージをいただき、制限された中でやれることを見つけ、生徒のみなさんと共に「希望」を創り出した1週間となりました。

(宗教教育委員会 刀祢館美也子)

たお父様から支えられた経験から、「相手の痛み・苦しみ」に寄り添い、現場に身を置くことで、絶望の中にこそ希望が見えてくることを知った。新生活様式というつながれない距離の中で、それでも共にいること、共に祈ること、神様とつながること、希望を創り出して「いこう」と語って下さいました。

学年別活動では、「隣人と共に生きる」ことをテーマに、社会のさまざまな分野の講師の先生と出会い、具体的実践活動を行いました。

21日(土)の閉会礼拝(放送)では、各学年の生徒代表が感想を発表し、それぞれが得たものを分かち合いました。

# クリスマス諸行事

中学では、例年の讃美歌コンクールを学年ごとのクリスマス讃美歌発表会に替え、十分な距離をとってマスク着用のまま各クラスが発表、その後学年全体の合唱を録画、**中学クリスマス礼拝**で視聴、YWC A部のハンドベル、放送部の聖書朗読なども録画や録音で、各教室で礼拝を捧げました。

**高校クリスマス礼拝**は、『靴屋のマルチン』を鑑賞、全校生でのハレルヤコーラスに替えて、音楽部、吹奏楽部、オーケストラ同好会によるハレルヤの録音、放送部による聖書朗読など、こちらも教室での礼拝となりました。

月下星志先生(日本キリスト教団広島東部教会牧師、本校聖書科講師)より、中学は「もともと特別なオンラインワン」、高校は「クセがすごいイエスの誕生」と題して、今、私たちに必要なのは強さや力ではなく、弱さを通してつながる絆ではないかとのメッセージをいただきました。

今年是一般公開の女学院クリスマスはできませんでしたが、中高生・教職員だけで昨年に上回る献金が捧げられ、コロナ禍で私たちよりいっそう厳しい状況下にある方々へ、皆様の思いと共に、献金として送らせていただきます。

ホールに全学年が集えず、合唱も厳しい条件下であり、例年とは異なる形となりましたが、恵みの内に礼拝がまもられたことを心から感謝したいと思えます。

なお、中学クリスマス礼拝の一部を中高のHPよりご視聴いただけます。

(宗教教育委員会 刀祢館美也子)



高校校地のツリー電飾

幼稚園

Kindergarten

共に歩む

開園130周年(2021年度)を記念して3冊の小さな本を編集することを計画し、その第1弾『水辺の物語』を2020年(129周年目)7月に刊行することができました。一貫してキリスト教保育を実践してきた本園が、牛田キャンパスの北西部、現在の地に移転したのは1994年のことでした。少子化の大きな波が押し寄せる中、これからの時代に必要な子ども遊びと生活の園環境を、神様の創造された自然とのふれあいを中心に据えて整えていくように、与えられていた牛田キャンパスの立地条件を生かしながら試行錯誤してきた経緯を綴ったものです。

1年に1冊、視点を変えながら3年連続で計3冊出版する予定で、過去と現在と未来をつなぎ、記念誌に終始せず、教育や自然や人に関わる仕事や研究等、あらゆる立場の方に興味・関心をもって読んでいただける内容にしたいと考えています。第2弾は「いのちの循環―土と農と食」、第3弾は「森の幼稚園―根を育む」(いずれも仮称)を計画、編集中です。ネット販売の体制を整備し、その売り上げは、幼大連携や子ども子育て支援活動充実のために用いていきたいと願っています。

(幼稚園 園長 高田憲治)

詳しくはコチラから



https://gensuyobook.shop-pro.jp

田島征三原画展

11月9日〜13日の1週間、大学構内牛田山荘で田島征三さんの絵本「つかまえた」の原画展を開催しました。アートディレクター天野耕太さんの協力によって、原画の展示されている部屋には木々が飾り付けてあり、絵本の風景と会場が一体化するようになっていたなど物語の世界へと誘う工夫が各所に散りばめられていました。原画と対面し、目を輝かせて見ている子どもたち。「何で描いているのだろう?」と不思議に思いながら、1枚1枚を丁寧に観察し、絵に凹凸があることを発見したり、原画と絵本の色の違いを見つけたりするなど様々なことを発見して楽しみました。



「わあ!絵本の中みたい!」

(幼稚園 柳田皓佑)

クリスマス

11月下旬、幼稚園はアドベント(待降節)に入り、子どもたちのクリスマスキャロルが響き渡りました。クリスマス礼拝までの期間、子どもたちとろうそくに灯をともし、アドベントカレンダーをめくり、一日一日と準備をしてきました。今年とは異なり、縦割り3クラス、保護者は同時中継に参加していただく事となりました。制限や制約のある中で、年長児は神様から与えられた役を大切に務め、年中少児は聖歌隊となり、たくさんの賛美をしてくれました。最後は「クリスマスおめでとう!」と、

ファミリーデー

11月、12月のファミリーデーは学年ごとの分散で、いつものように保育室、園庭、ホール、ひろせ文庫、ぼうけんの森を開放。そして3回ともに、遊びの達人方が来園して下さいました。こま回しやバランスボードを鑑賞、体験したり、ファミリーデーではお馴染み広島フィールドミュージアムの菊間馨さんと森で遊んだり、それぞれの親子がいろいろな人や遊びと出会い、好きな場所ですつたり過ごす豊かな時となりました。



こま名人の中島昭雄さん



天野耕太さんと一緒にバランスボード

(幼稚園 梅田桃香)



「見てみて!また一つ、窓があいたよ。」

喜び溢れる時となりました。礼拝後、「その場にはいかなかったけれど、画面越しに参加したよ。素敵だったな。」と、互いに声を掛け合う姿が見られました。「見えなくても繋がっている」そう強く思う、あたたかな礼拝となりました。

(幼稚園 坪山菜津子)

法人

Corporation

湊晶子院長・学長 中国文化賞 受賞

このたび、湊院長・学長が「第77回中国文化賞」を受賞いたしました。

中国文化賞は、1942年（昭和17年）に始まり、中国新聞社が文化の向上に大きく貢献した中国地方ゆかりの①文化・芸術、②学術・教育、③地域貢献いずれかの部門で功勞のあった個人、団体を称える賞で、今年度は5人1団体が受賞しました。（以下中国新聞2020年11月3日掲載記事より抜粋）

「人に流されない『ぶれない私』を持ってほしい。女性が育たないと日本は駄目になる」。その信念を胸に60年、大学教育の現場に身を置いてきた。：広島に単身赴任したのは81歳の時。米寿を迎えた今も、教育に懸ける情熱は衰えを知らない。生きざまが多くの学生たちを鼓舞してきた。：千葉空襲では、防空壕で生き埋めになりながらも九死に一生を得た。『与えられた命を生かそう』と猛勉強し、東京女子大へ。卒業後は奨学生として米国に渡り、5年7か月の留学生活を通じ、国際社会で生き抜く力も身に付けた。（中略）



盾は2020年度文化勲章受章者 奥田小由女氏の作

『報酬が出る職がある時だけをキャリアと呼ぶ人がいるが、私の定義は違う。主婦業も奉仕活動も含め、人生が終わるその日まで全ての労働がキャリアです』。自分色に色づき、自分らしい人生を全うして。学生にはそんな言葉を贈るつもりだ。」

今年度の全学院研修会は、幼稚園・中高・大学からの7名で構成する実行委員会により、オンラインの礼拝形式で実施することや、プログラム内容等を決定しました。実施形態について、当初は感染症予防の観点からビデオの個別視聴の案で出発しましたが、参集することの意義を考え、また次期院長・学長のメッセージを適切に参加者にお届けするためにも、各校部を単位とし、密を避けるなどの対策を徹底したうえで参集し、ビデオを視聴するかたちをとることにしました。

当日上映されたプログラムにおいては、まず中川日出男理事長より開会の辞として、建学の精神であるキリスト教主義教育の再認識という研修全体の意義を確認していただきました。続いて湊晶子院長・学長が『建学の精神を築いた先達から学ぶ』と題して、戦時下と原爆投下という困難の中、学院の存続と復興をになった松本卓夫院長を中心に、本学の歴史を形作った先達のお働きを紹介していただきました。さらに三谷高康先生（桜美林大学教授、次期院長・学長）は、『キリスト教主義教育の意義』として、キリストのあがないに根差した隣人愛、すなわち犠牲をとまなう愛を根本とした教育というヴィジョンを語って下さいました。これらの重要なメッセージを皆さんでパイプオルガンによる前奏・後奏、開・閉会祈祷、聖書朗読によってビデオ礼拝のかたちと現実がととのえられました。

出席者数は185名（大学104名、中高69名、幼稚園12名）と多くの方が集って下さいました。参集形式とすることは、検討や議論を重ねての難しい決断でしたが、ご参加の皆様のご協力によって無事開催できたことは本当に感謝でした。

今回は、湊晶子先生の院長・学長としての最後の全学院研修会となりました。本学院と、そこに学ぶもの、働くものすべてに対して示して下さいました愛の大きさに、万感胸に迫る思いです。

（広島女学院全学院研修会実行委員長 澤村雅史）

「キリスト教主義教育の今日的意義」  
〜2020年度広島女学院全学院研修会報告〜

寄附金事業について

本学院の募金事業に対し、同窓生の皆様をはじめ、学生・生徒・園児のご父母、本学院関係者、企業等、多くの皆様からご協力、ご支援を賜わり、心より感謝申し上げます。この度、現在までの寄附金事業について、ご報告させていただきます。

2016年10月から2020年3月31日まで「創立130周年記念募金」を募集させていただきました。8500万円余の多額のご支援を頂きました。さらに一般や遺贈による寄附金として2016年度からの4年間で累計3億800万円余のご支援を頂いており、重ねて厚くお礼申し上げます。

この間の寄附金事業として、大学は正門周辺環境整備、学生会館であるヒノハラホール、講義棟である人文館の全館トイレの洋式化、ランバスホールの天井改修、情報関連機器の更新等、中高は外壁及び図書館の改修、パイプオルガンの購入、幼稚園は、園舎の増築、園庭環境整備等を計画に基づき、着実に実施させていただきました。さらに大学は、研究を支援する基金も設置するなど教育環境の整備に積極的に取り組ませていただいております。

今年度、新型コロナウイルス感染症対策で遠隔授業を余儀なくされたことから、学生に対し緊急的に自宅学習支援金を支給するなど、学生・生徒・園児に寄り添った運営に努め、「新型コロナウイルス対策緊急支援募金」の取扱いも開始いたしました。

地方の教育機関にとつて、少子化や都市圏への学生の集中など厳しい経営環境が予想されますが、歴史と伝統を守りつつ、教職員一同全力を尽くし、広島女学院の発展にむけ邁進してまいりますので、引き続きご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

（財務課長 加藤佳輝）

**ご寄付のお願い**

2020年4月よりクレジットカード決済に対応したインターネットからの寄付金募集を開始しました。皆さまには引き続き格別のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

詳細は学校法人広島女学院ホームページ <https://www.hju.ac.jp/houjin/donation/> をご覧ください。

お問い合わせ/財務課 TEL.082-228-0387



